

群師紀要 第1輯 郷土研究

復刊版

要 紀 師 群
輯 一 第
究 研 土 郷

2 5 9 4

校 學 範 師 縣 馬 群

群馬地域文化振興会

群 師 紀 要

第 一 輯

鄉 土 研 究

2 5 9 4

群 馬 縣 師 範 學 校

序

師範學校は教育者養成の場所にして、又國民教育研究の機關なり。教育の研究は、常に新にして眞摯ならざるべからず。教育者の養成は着實にして進歩を要す。養成の實績を擧げんと欲せば、不斷の研究に俟たざるべからざるは多言を要せざるべし。

國民教育に於ける研究は、方法に關するあり、理論に亘るあり、或は各教科に屬するあり、多岐多端といへども常に實際に即せざるべからず。單に理論を瀕り學理を研討しゆくは他に其人あるべし。苟も教育者養成を標的としての研究にあらざれば、其齎すところの價値また尠かるべし。往年文部省が多額の國費を頒ちて、師範學校に郷土室の整備を命ぜしも、教育をして郷土の實狀に即せしめんとどの施設に外ならざるべく、これ實に教育の進路に一躍進を與へ、教育史上に一期域を劃せるものといふべし。教育の研究は、常に學苑に育つるのみならず、廣く世に問ひ、普くこれを實際家に質さざるべからず。特に師範學校は、小學校との關係極めて密にして、常に其の連絡を保ち、形影相依り、以て教育の進歩に貢獻すべき責務を有す。

本校茲に見るところあり。一は我校教師及び生徒の不斷の研究を求め、一は縣下初等教

育の向上に資せんが爲に、研究發表の機關を設け、名けて群師紀要といふ。今後教育活動に關する研究にして力ありと認むるものは、これによりて世に公にせんと欲するなり。

申すも畏きことながら、天皇陛下には、今秋陸軍特別大演習御統裁後地方、行幸の砌、聖駕を我師範學校に枉げさせ給ひ、親しく本校及び附屬小學校の授業を、天覽あらせられ、更に郷土教育資料陳列室に、玉歩を運ばせ給ふとの御内意を拜す。教學振興に對する、敬慮のほど畏き極みにして、感激措く能はざるところなり。恰もよし、群師紀要の第一輯成り、郷土研究號として近く世に出でんとす。願くは、世の識者の批正と鞭撻とにより、本校に於ける研究の、日に新に、年と共に進み、國民教育向上の資料として其力を發揮し、千載一遇の日を迎へて生れ出でたる該機關のいよ／＼發展しゆきて、以て永遠に我教育の上に光あらしめんことを。

昭和九年十一月

群馬縣師範學校長 中山 正心

目次

序

上州人の性格に關する一研究

國澤博 (一)

——意志氣質検査結果報告——

山麓地帯の灌漑用水の地理學的研究

劍持常昌 (三五)

附 用水より見たる前橋市の研究

關孝和及其事蹟

三木眞三 (八一)

——和算研究への導き——

勢多・佐波郡を中心とせる田植歌への瞥見

富山昇 (一五)

言繼卿記に觀たる上泉武藏守信綱

下島攀一 (一五)

利根川河岸の研究

川島儀三郎 (一七)

上野國號考

高橋元良 (二七)

萬葉集東歌研究の諸問題

荒木田楠千代 (二二)

——郷土研究資料として——

上野國山上多重塔の研究

千々和實 (三五)

——上野上代に於ける佛教精神史の展開——

上州人の性格に関する一研究

— 意志氣質検査結果報告 —

國澤

博

目次

はしがき

一序

二検査の實施

三検査の結果

四結

上州人の性格に關する一研究

— 意志 氣質 檢査 結果 報告 —

國 澤 博

はしがき　この報告は本校昭和九年度専攻科心理學科の一實習として課したものをまとめたもので、何かと意に測たない點も多いが、とにかくこれはこれとして發表することにした。特に御批正を乞ふ次第である。

一 序

上州人は昔から「上州長脇差」とうたはれ、「嬉天下」を名物視せられ、軍隊にあつては「攻撃に適し、守備に不適」と評せられて居り、自ら亦「宵越しの金はつかぬ」と云ふ——これらの言葉はとにかく上州人が何處か著しい性格の持主たることを裏書きして居ると見ることが出来るであらう。所謂上州人か、たぎ、とはこの上州人獨特の性格、即ち上州人獨特の物の考へ方、感じ方、行動の仕方の根柢に窺はれる性質の謂に他ならない。

凡そある團體なり、社會なりが一般的に示す所の性質はその團體の大多數の人々の個人的な性質であるとも云はれるが、然し他面それは個人の新陳代謝に拘はらず、比較的獨立に存し、そこに入つて來る人々の考へ方、感じ方、行動の仕方を同化するものと見ることが出来る。上州人か、たぎ、とはこの意味に於ける團體なり、社會なりの性格の謂に他ならない。